

教員養成の理念及び養成する教員像

これまで本学は下記のような教員養成に対する理念・構想を持ち、教員養成を行ってきた。

すなわち、教員としていつの時代も不易に求められる資質・能力である、(1)「教師の仕事に対する強い情熱」、(2)「教育の専門家としての確かな力量」、(3)「総合的な人間力」という3つの資質能力はこれまで中央教育審議会答申で繰り返し述べられてきたものである。これらの3つの能力については、(1)キリスト教主義に基づく人格形成を基盤とした他者に寄与する女性教員の育成(他者に対する慈愛の精神など)、(2)専門的力量や実践的指導力を持った教員の養成(教職課程および学科専門科目をととした専門教育、教育委員会及び近隣学校と連携した教育ボランティアなど)、(3)幅広い教養を基礎に専門的知識・技術を身につけた教員の養成(総合的な科目の配置、地域社会の特色を示す授業科目の設置など)という理念・構想のもと、これまでその育成に励んできた。

一方、中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(平成27年12月)では、上記の3つの資質・能力に加え、「これからの時代の教員に求められる資質能力」として、1)「キャリアステージに応じた資質・能力を高める自律性(「学び続ける教員」)」、2)「「チーム学校」の考え方の下、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力」、3)「新たな課題に対応できる力量(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実など)」という3つの資質能力が新たに提言されている。

2018年度改組にあたって、本学は建学の精神を基盤とした女性のライフキャリアの支援という目的を達成するために、1)「ぶれない個」、2)「多様性」、3)「寛容と協働」という3つの新たなディプロマ・ポリシー(以下、DP)を定めた。本学教職課程では、この3つの新たなDPにあわせて、下記のように中央教育審議会(以下、中教審)が提唱する新たな3つの資質能力を備えた教員を育成することを目指している。

1) 教員としてのライフキャリアを確立するための基礎力の育成

時代や社会の変化を見据えつつ、本学の建学の精神および新DP「ぶれない個」の下に、教員としての生涯を見通した「ライフキャリア」という視点を育むことを目指す。すなわち、改組に当たって設立した「ライフキャリア科目」によって、自己の将来への展望を明確にし、ライフキャリアを確立していくための基礎力を培うとともに、それらの基礎力を土台に、本学で電子化・システム化している教職カルテを活用し、学びのキャリアを意識しながら、学科の専門科目とともに教職科目を履修することで、教員としての専門的知識、技能、力量、資質を段階的に身に付けさせる。

2) グローバルな視点に立ったアクティブ・ラーニング

本学のキリスト教主義という建学の精神および新DP「多様性」の下に行う国際的な視

野を持ったリベラルアーツ教育によって、新たな課題に対応できる力を育成することを目指す。すなわち、国際的な視野に立った国内外の言語や文化についての教育を通したグローバル化する社会に対応する力、それらの様々な専門領域との交流・ディスカッションおよびフィールドワークやインターンシップなどの主体的、協働的、体験的な学習＝アクティブ・ラーニングを通した横断的知識と問題解決力等を育む。

3) 体験活動を通した他者との協働連携

本学の建学の精神および新DP「寛容と協働」の下に、先述の新DP「ぶれない個」によって培った自己と他者の多様な価値観・生き方を発見、受容し、他者との共生を実現できる力を発展させ、中教審によって提唱されている「チーム学校」という方向性に合わせて、さまざまな専門性を持ったスタッフと協働できる寛容性および資質能力を育むことを目指す。すなわち、本学で開講している各種インターンシップおよび学内外のボランティア活動を通して、年齢、性別、地域等々を異にする他者と交流することで、他者の多様な価値観・生き方に触れるとともに、それらを寛容の精神の下に受容し、他者と協働する力を育む。